

教えて！米子城

第22回

米子城の発掘調査について その4



同じ中学校に通う同級生、**戸山ミナちゃん**と**平山ジローくん**。米子の歴史や文化（カルチャー）のことにくわしい**かるちゃん**といっしょに米子城の魅力や謎に迫ります。前回に続いて、平成28年度に行なわれた米子城跡の発掘調査について、調査を担当したハマノ学芸員を交えて学びます。

ハマノさん：それでは、米子城跡の**登り石垣**について少しくわしくお話ししましょう。皆さん、山陰歴史館の米子城絵図展は見ましたか？

ジローくん：見たよ。江戸時代の米子城絵図に、天守と内膳丸をつなぐ石堀みたいなのが描かれてた。それが登り石垣なんだよね。

ミナちゃん：元文4（1739）年の「**米子御城明細図**」を見ると、中海側の鈴門から内膳丸に登ったところに御門があって、そこから、一方は内膳丸に、一方は天守遠見櫓に延びる石垣が描いてあったわ。

かるちゃん：さすが！ハマノさんの指導を受けて、よく観察してるな。

ハマノさん：米子城の登り石垣は、存在は知られていたのですが、実態がよくわかりませんでした。そこで平成28年度に発掘調査を行ない、その結果、なんと絵図と同じ場所に、登り石垣が少なくとも40mは残っていることが確認できました。

ジローくん：絵図が正確に描かれているということも言えるわけだね。

ミナちゃん：だったら構造なども絵図から推測することができるかな。

ハマノさん：そうですね。絵図からはいろいろなことがわかります。実際に現場を発掘してみた結果、米子城の天守のある湊山と内膳丸のある丸山を結ぶ尾根の稜線の西側の岩盤をL字状に削り、削った岩盤に擦り付けるようにして登り石垣が構築されていることが判明しました。湊山の地形や地質をうまく利用して構築されていることがわかりますね（右図参照）。基部をよく観察すると、石垣は岩盤に直接設置されており、高さが合わないところは根石で調整しているようです。石垣は、4段ほどが残っていますが、上面の失われた部分も含めると6段以上はあったようで、用いられた粗割石は、大きいもので長さ150cm以上、高さ80cmはあり、石垣だけでも3m以上の高さがあったと推定されます。

かるちゃん：尾根の高低差を利用した強固な石垣というイメージだね。米子城は、山頂の天守を中心に、自然地形をいかした防御構造という戦国時代的なテイストを持った城だね。

ハマノさん：だから面白いんです。そのあたりのことを「もっと知りたい！米子城」的な方は、**4月22日（土）の史跡米子城跡発掘調査現地説明会**にぜひお出かけください。私が登り石垣の秘密を語ります。

かるちゃん：それともう一つ。**4月8日（土）**は、恒例の**春の米子城下町がっつりウォーク**があるね。

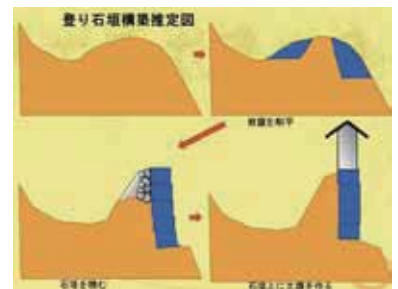
ジローくん・ミナちゃん：おー、これは楽しみだね。みんなで参加しよう！

春になって米子城イベントシーズン到来！くわしくは、12ページのイベント案内で

（米子市教育委員会 文化課）



検出された登り石垣
（城メグリストさんも興味津々）



登り石垣の構築推定図



登り石垣の高低差（手前が中海側）